



まほろん令和元年度企画展

渦文

— 時を超える文様 —

【解説資料】

会期：2019年9月28日（土）～12月15日（日）

会場：福島県文化財センター白河館（まほろん）

縄文土器の表面に出現して以来、さまざまな時代にわたり、繰り返し表現されてきた渦巻文様。

人々は、なぜ渦巻文様を採用してきたのでしょうか？

その答えは、今となってはわかりませんが、福島県内から出土した渦巻文様が表現された考古資料を通して、その答えを考えてみましょう。

さあ、うずまきの時間旅行に出発です。



プロローグ 原初のうずまき—縄文時代早期—

ツタやワラビなどの植物、貝類や蝶の口などの動物、水面の渦や湯気など私達の身の回りには、様々な渦巻が見られます。そのような渦巻を写したのかどうかわかりませんが、人類は、自分たちが使う道具などに渦巻文様を表現するようになりました。福島県域で最も古い渦巻文様は、今からおよそ9,000年前の土器に表現されました。cの資料に見られるように、斜めに描かれた平行線が変化して、渦巻文様になっていったと考えられています。



a. 蛇石前遺跡出土縄文土器（深鉢）



b. 塩喰岩陰遺跡出土縄文土器（深鉢）



c. 塩喰岩陰遺跡出土縄文土器（深鉢）

② 最初のうずまき隆盛—縄文時代前期—

縄を押し当てて表した文様の間にある円文が、いつの間にか渦巻になっていったんだ。



a. 上田郷VI遺跡出土縄文土器（深鉢）



b. 荻平遺跡出土縄文土器（深鉢）



c. 上田郷VI遺跡出土土偶

縄文時代早期の終わり頃、aの資料のように縄を押し当てる文様の起点に円文がつけられていました。この円文がいつしかbの資料のように渦巻に変化して、今からおおよそ7,500年前頃、縄文時代前期を迎えます。

縄文時代前期のはじめの頃は、縄を押し当てて描かれた渦巻文が流行し、d～gの資料のように渦巻は大きくなっていきました。

その後、縄を押し当てる手法は一度途絶えます。渦巻文もあまり見られなくなりますが、hの資料のように、土器の縁に近い部分の文様として施される場合があります。



d. 塩喰岩陰遺跡出土縄文土器（深鉢）



e. 本町西C遺跡出土縄文土器（深鉢）



f. 羽白D遺跡出土縄文土器（深鉢）



g. 獅子内遺跡出土縄文土器（深鉢）



h. 南倉沢遺跡出土縄文土器（深鉢）

縄文時代前期の終わり頃の土器です。動物の頭のモチーフの下に、刻みのついた粘土紐で渦巻文を表現しています。

③ うずまき大爆発—縄文時代中期—

つつましくつけられていた渦巻が、色々な場所に増えていく様は、花が咲き誇っているようだね。



a. 植松C遺跡出土縄文土器（深鉢）



b. 法正尻遺跡出土縄文土器（深鉢）
国重要文化財



c. 法正尻遺跡出土縄文土器（深鉢）
国重要文化財



d. 法正尻遺跡出土縄文土器（深鉢）
国重要文化財



e. 八方塚A遺跡出土縄文土器（深鉢）



g. 高木遺跡出土縄文土器（深鉢）



f. 上ノ台A遺跡出土縄文土器（深鉢）

今からおよそ5,500～4,500年前の縄文時代中期には、土器に渦巻文が盛んにつけられました。

最初のころは、aやbの資料のように、土器の上の方に少数の渦巻が表現されていましたが、その後は、c～eの資料のように器面のいろんな場所に渦巻文がつけられるようになり、渦巻文の最盛期を迎えます。

その後、渦巻文とそれを取り巻いていた区画線が組み合わさってfの資料のような渦巻文になり、最後にgのような大振りのモチーフに変化して消えていきます。

4 姿を変えるうずまき—縄文時代後期・晩期—

入り組み文様は、時として渦巻になり、雲のような文様の合間にも渦巻が見え隠れしているよ。



a. 柴原 A 遺跡出土縄文土器（深鉢）



c. 柴原 A 遺跡出土土偶



b. 川原遺跡出土縄文土器（注口付土器）



d. 一斗内遺跡出土土版

今からおよそ4,500～3,500年前は、縄文時代後期とされています。この頃の土器には、CやJやS字が組み合わさったような入り組み文様が描かれますが、それが渦巻文に変化したものがみられます。また土器だけではなく、cの土偶やdの土版といった土製品にも象徴的に渦巻文が描かれます。

今からおよそ3,500～2,500年前頃の縄文時代晩期には、渦巻文はあまり見られなくなりますが、飾られた土器や土製品に表現される雲のような文様の一部に認められることがあります。



e. 稻荷塚 B 遺跡出土縄文土器（浅鉢）



f. 岩下 B 遺跡出土縄文土器（浅鉢）



h. 田子平遺跡出土縄文土器（注口付土器）



g. 塩喰岩陰遺跡出土縄文土器（浅鉢）



i. 田子平遺跡出土土笛



j. 羽白 C 遺跡出土土製品

5 巨大化するうずまき—弥生時代—



a. 松ヶ作 A 遺跡出土弥生土器（浅鉢）



b. 岩下 A 遺跡出土弥生土器（鉢）



c. 一ノ堰 B 遺跡出土
弥生土器（壺）

約2,500～1,800年前の弥生時代には、bの資料に見られるハの字の先端が折れ曲がる文様から渦巻文が発生し、中頃には手法を替えながら、次第に巨大で巻数の多い渦巻が描かれます。

弥生時代の終わりの方では、gの資料のような入り組み文的な渦巻文が少数ながら認められます。



d. 一ノ堰 B 遺跡出土弥生土器（壺）



e. 屋敷遺跡出土弥生土器（壺）



f. 五畝田・犬遺跡出土弥生土器（壺）



g. 能登遺跡出土弥生土器（壺）

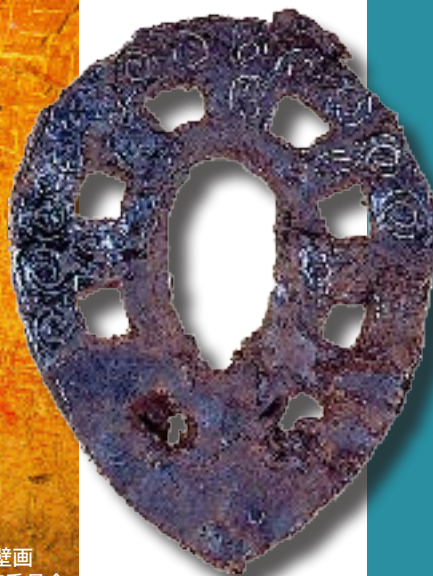
ハの字に開く文様の先端が、ひとまき、ふたまきと巻数を増やして
巨大な渦巻になったんだ。なんだか眩暈がしてきたよ。

⑥ 聖なるうずまきー古墳時代ー

白壁に赤く塗られた渦巻や、刀を飾る金色の渦巻は、墓の主とどんな関係があると思う？



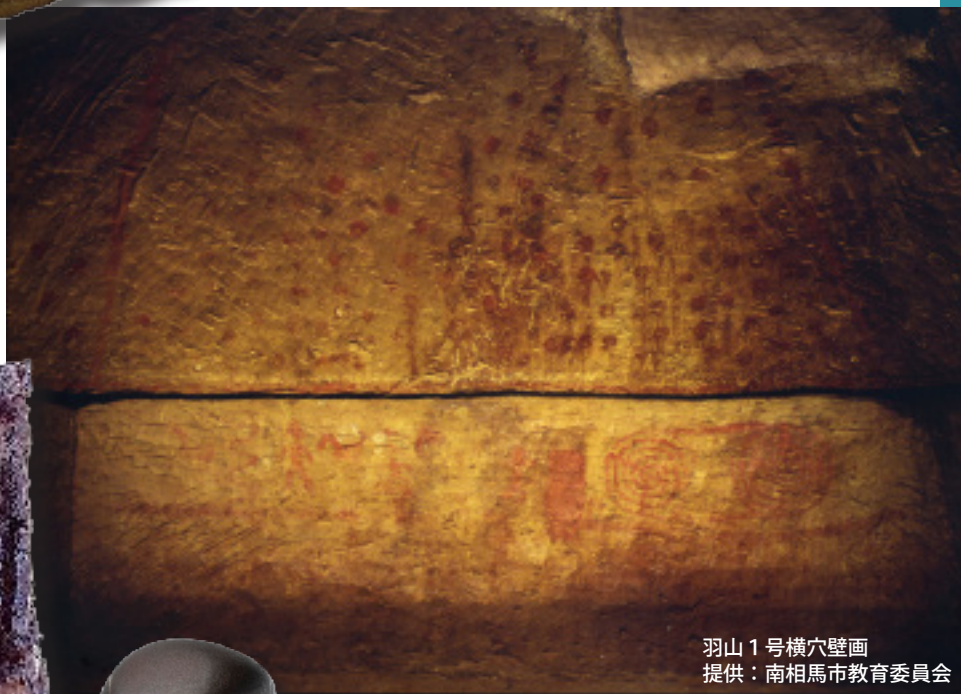
清戸迫76号横穴壁画
提供：双葉町教育委員会



a. 跡見塚古墳出土象嵌鏝
(福島県立博物館 蔵)

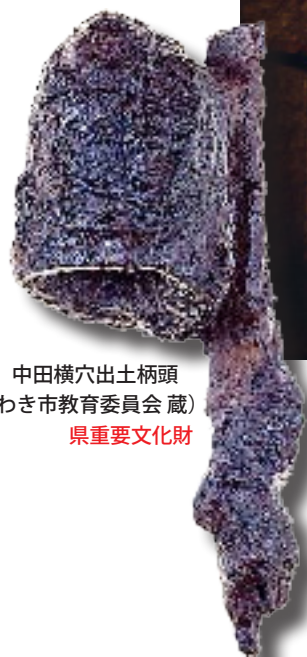


b. 観音山横穴墓群7号墓出土柄木 (白河市 蔵)



羽山1号横穴壁画
提供：南相馬市教育委員会

c. 中田横穴出土柄頭
(いわき市教育委員会 蔵)
県重要文化財



d. 中田横穴出土
柄頭復元品

古墳時代の器には、渦巻文は見られなくなりますが、福島県域に多い装飾壁画をもつ横穴墓には象徴的な渦巻文が描かれたものがあります。

また、墓と一緒に入れられた豪華な刀の飾にも象嵌の渦巻文が細工されているものが多数見られます。



泉崎4号横穴壁画
提供：泉崎村教育委員会

墨で描かれた渦巻の秘密を知ってる？と問いかけてくる君の瞳が渦巻にみえてきたよ。

⑦ 祈りのうずまき—古代—



a. 鶴沼 B 遺跡出土土師器（杯）



b. 鶴沼 B 遺跡出土土師器（杯）



d. 向田 A 遺跡出土獣脚鋳型と複製獣脚



c. 北大久保 E 遺跡出土藤手刀

奈良・平安時代になると、d の資料のような仏教に関係する道具や貴族の使う布や調度品などに、唐草文に由来する渦巻文がみられますが、庶民の道具には見られなくなります。

わずかに、a・b の資料のようなまじないで使用される例や c のような刀のデザインで使われるのみです。

⑧ さまざまなうずまき—中世・近世—

鎌倉・室町時代は、a の巴文や b の雷文などが見られるのですが、江戸時代に入ると、陶磁器の普及とともに、さまざまな渦巻が、庶民の使う道具に表現されるようになりました。



b. 観音山遺跡出土瓦質土器（火舎）



c. 観音山遺跡出土軒平瓦



a. 善光寺遺跡出土灰釉陶器（瓶子）



d. 今神遺跡出土磁器（染付猪口）



e. 観音山遺跡出土磁器（染付徳利）

ねえ、知ってた？唐草文や雷文は、海を越えてやってきた文様だったこと。



エピローグ そして渦は巻き続ける

そして現在、私達の身の回りには、風呂敷にラーメンどんぶり、蚊取り線香に漫画のキャラクターなど、数多くの渦巻があふれています。それは、中心から外側へ、外側から中心へ動きを感じさせる造形に人類が興味をひかれるからにはほかならないのかもしれませんが。人々の生活の中に息づく渦巻文様は、消えてなくなることは無いのかもしれませんが。



展示資料関連遺跡地図



〈表紙〉
一斗内遺跡出土土版

本展示及び解説資料等の作成にあたり、次の機関からご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。(順不同)
福島県教育委員会、福島県立博物館、白河市、いわき市教育委員会、南相馬市教育委員会、双葉町教育委員会、泉崎村教育委員会、東北大学総合学術博物館

まほろん令和元年度企画展

渦文 - 時を超える文様 -

福島県文化財センター白河館（まほろん）
開催期間：2019年9月28日～12月15日
編集・発行：公益財団法人福島県文化振興財団
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86
TEL：0248-21-0700 FAX：0248-21-1075
ホームページ：まほろんで検索（2019年9月26日発行）